

## 感染予防対策と経済性に配慮した病院設計

## 司会のことば

村山 郁子 ICHG 研究会 理事

ヘブロン会大宮中央総合病院 薬剤科

カナダ、EU諸国特にオランダ・オーストリア等の病院を見てみると、わが国の病院とかけ離れた機能美・色使いと、使用いやすさ・立派さに驚かされる。

従来、わが国の病院建築設計は、構造設計・デザイン設計等を行う設計事務所と施工を行う大手ゼネコンが指導的な立場で病院を建築してきた。当然、施主側と常に相談しながら設計をしているが、施主側からは、間取りや、大まかなデザインの要望は出ても、感染予防対策までに配慮した細かな要望は通常出されず、「専門家にお任せします。」といった形で任されてしまう傾向にある。施工側は、工期が短期間でできるだけ安い素材で見栄えよく仕上げることに専念することになる。

施主側の問題点としては、情報不足のために要望が漠然として明快な形で出すことができない。感染予防対策上、何が必要で何を要望していいのかさえわからないのが一般的現状であると考えられる。

本セミナーでは、10年来続けているEU諸国の病院視察を通して得た「病院に働く医療従事者と入院する患者のための建築設計」に視点をおき、同時にライフサイクルも考慮したトータルコストの経済性も追求して、病院内の細部にわたり、感染予防対策に配慮した具体的・実践的な情報を提供する。今後病院を建築設計する際の一助になると考えている。

EU諸国では、必ず感染予防対策チーム (ICT) が病院建築設計に関わり、実践に即した病院を建築している。

「感染予防対策と経済性に配慮した病院設計」に関して、ICHG 研究会では以下のポリシー (施策・方策) を常日頃考えている。

- 1、患者と医療従事者の安全性とアメニティー
- 2、トータル的な耐久性と経済性
- 3、使用しやすさ・清掃のしやすさの追求
- 4、環境に配慮した設計

わが国は、人口の減少、入院期間の短縮、医療制度の変更を余儀なくされ、病院経営はますます難しくなる時代を迎える。患者にとってまた、医療従事者にとってよい病院建築設計を行うことが病院生き残りの重要な要素と考えられる。設計側・施主側ともに情報の共有と意識改革が必要である。